

# 北上川流域水循環計画（第2期）最終案の概要

## 北上川流域水循環計画（第2期）の策定

「ふるさと宮城の水循環保全条例」に基づき策定している「北上川流域水循環計画」について、令和元年度に終期を迎えた第1期計画での取組や計画を取り巻く状況の変化等を踏まえ、第2期計画を策定する。

### 第1章 計画の基本的事項

#### 【計画の性格】

- 宮城県水循環保全基本計画（第2期）（令和2年度策定予定）で定める基本事項をもとに北上川流域における健全な水循環の保全に関する施策の効果的な推進を図る。

#### 【流域水循環計画の目的】

- 北上川流域の水循環の現状把握等により見出される課題に対し、解決・改善を図るための具体的な対応・取組を示す。

#### 【計画の対象区域】

- 北上川水系、定川水系の流域及びこれら水系間の沿岸域から構成される5市2町（石巻市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、涌谷町、美里町）を対象とする。



#### 【計画期間】

- 上位計画である「宮城県水循環保全基本計画（第2期）」に定める計画期間（11年間：令和2年度～令和12年度）とする。

## 第2章 基本計画の基本理念と目指す将来像

#### 【基本理念】

みんなでつなぐいのちの水 ～守り、育て、未来へ～

#### 【健全な水循環を構成する4つの要素と目指すべき将来像】

清らかな流れ	河川、湖沼及び海域の水質が良好であり、生活用水や農業用水及び工業用水等の使用に支障が生じず、河川、湖沼および海域といった水域に生息する動植物の生育にも支障が生じない状態	
豊かな流れ	森林や農地等の有する多面的機能が十分に発揮されるよう取り組むことにより、雨水が涵(かん)養されて地下水や湧水が豊富にあり河川では生活用水や農業用水及び工業用水等の流量や動植物の生息、河川景観の維持等のための流量（正常流量）が確保されている状態	
安全な流れ	洪水や高潮等の自然災害に対して、環境に配慮しつつ河川整備や海岸整備を推進することで私たちの資産が守られるとともに、流域全体での総合的な対策に取り組むことによって、大規模な自然災害に対して人命の安全が守られる状態	
豊かな生態系	健全な水循環が維持されることによって、宮城県に本来生息する多様な動植物の生態系が保たれている状態	

## 第3章 流域の現状と課題

#### 【計画を取り巻く近年の状況】

1 気候変動	(1) 気候変動等による影響 (2) 近年の大規模洪水による被災
2 東日本大震災	(1) 東日本大震災の復興事業における環境配慮
3 その他	(1) マイクロプラスチック等による海洋汚染問題 (2) 新型コロナウイルス感染症等への対応

#### 【水循環の4つの要素から見た現状と課題】

要素	第1期計画の主な取組	現状と課題
清らかな流れ	○伊豆沼・内沼自然再生事業 ○污水处理人口普及率の向上 ○環境にやさしい農業の推進	・ハスの刈払いにより溶存酸素濃度の改善傾向を確認 ・湖沼の水質環境基準の達成度は低い状況で推移
豊かな流れ	○節水及び環境保全行動の実践 ○渇水情報連絡会等での情報共有 ○水源林保全の普及促進	・渇水情報連絡会で関係機関の情報共有、円滑な水利用が図られている ・気候変動の影響により大規模な渇水が発生する恐れあり
安全な流れ	○河川情報システムによる情報提供 ○河川整備計画に基づく河川改修の実施	・大雨、洪水時に情報収集及び情報提供を行い避難行動に活用されている ・近年、洪水や土砂災害が頻発化・激甚化
豊かな生態系	○伊豆沼・内沼自然再生事業 ○多自然川づくりの実施 ○水生生物保全に係る環境基準の類型指定	・伊豆沼から姿を消した水生植物のうち21種を復元 ・気候変動に伴う水温等の上昇が生態系へ与える影響の懸念

## 第4章 水循環に関わる県民の意識とこれまでの取組

- 県民2,000人、関係団体50団体を対象にアンケート調査（令和元年9月）

#### 【県民の意識の変化・取組】

- 「地下水位の低下」、「親水機能の低下、水文化の喪失」を懸念する意見が他の流域よりも高い傾向となっている
- 「水害の多発」に対する問題意識が高くなっている
- 多くの県民が水循環に対する取組が必要と考えており、参加意識も高くなっている

#### 【民間団体の取組】

- 「水とふれあう活動」や「河川清掃」等には、多くの団体が取り組んでいるが「水に対する防災教育を実施する活動」等では活動団体数が少ない
- 活動に当たっては情報面と人材面が課題

## 第5章 流域水循環計画（第2期）

#### 【4つの要素に対する管理指標と流域管理指標】

要素	4つの要素に対する管理指標	流域管理指標
清らかな流れ	水質測定の結果、環境基準を満足した地点数の割合	水質(湖沼COD,全燐,透明度,水温,DO), 污水处理人口普及率
豊かな流れ	森林や農地等の地下水涵養能力と、河川の流量が正常流量を満足した日数の割合の平均値	渇水流量
安全な流れ	河川と海岸の整備が必要な総延長に対する整備済み延長の比率の平均値	避難確保計画作成率
豊かな生態系	土地利用の人為的影響又は自然性の程度と、生息が確認された指標種・重要種数の割合の平均値	マガン飛来数, 水生生物調査参加者数, 流域活動団体支援事業実施状況, スマイルサポーター認定数

## ① 4つの要素の目標

11年後までを目途とした長期的な目標は次のとおりとする。

4つの要素の管理指標	前回 (H21年度末)	今回 (H30年度末)	目標値 (R10年度末)
清らかな流れ	6.7点	7.0点	10.0点
豊かな流れ	8.6点	8.6点	8.6点
安全な流れ	2.7点	4.2点	8.4点
豊かな生態系	6.3点	6.9点	7.5点

## ② 流域の課題に対する対応

要素	現状と課題	第2期計画の主な取組
清らかな流れ	・湖沼の水質環境基準の達成度は低い状況で推移	○伊豆沼・内沼自然再生事業 ○蕪栗沼環境管理基本計画に基づく遊水地機能の維持と自然環境の保全
豊かな流れ	・気候変動の影響により大規模な渇水が発生する恐れあり	○渇水情報連絡会等での情報共有
安全な流れ	・近年、洪水や土砂災害が頻発化・激甚化	○避難確保計画作成・避難訓練の促進 ○河川情報システムによる情報提供の拡充
豊かな生態系	・気候変動に伴う水温等の上昇が生態系へ与える影響の懸念 ・マイクロプラスチック等の海洋汚染問題	○水生生物調査 ○スマイルサポーターによる美化活動等の推進

## ③ 流域の健全な水循環の保全に関わる施策・取組

施策の大綱、県の主な取組、行政計画・施策、関係団体の取組

## ④ 計画推進のための方策

関係団体の連携・協働、各主体の役割、進行管理の体制と方法（PDCAサイクル）、計画の普及啓発、流域水循環計画推進会議

## 第6章 水道水源特定保全地域の指定

「ふるさと宮城の水循環保全条例」に基づき、「山間部の水道水源地域のうち、その地域の良好な水循環の保全を図る上で特に重要と認められる区域」を指定（平成24年2月告示）

本計画策定後、最新の「植物自然充実度調査」等を基に、指定区域の見直しを実施

